

# 出会いは世界を広げていく

## 交流会を通して

第8回

土肥いつき DOHI ITSUKI

京都の公立高校教員。24時間一人バレード状態のトランス女性。趣味の交流会運営で右往左往する日々を送っている。

### キャンプの経験が教えてくれたこと

前号（10月号）には、2度目のプログラムディレクターとしておこなった「やまびこキャンプ」の3日目午前までのプログラムについて書きました。ここまではグループタイムや自炊、あるいはさまざまなタスクをこなすプログラムを提供して、個々のメンバーの自主性とグループに必要な協調性を高めていくことを目的としていました。そのようにして育っていった各グループがひとつのキャンプになるプログラムとして、3日目夜の「まつり」を考えました。

「まつり」では、各グループがさまざまな料理をつくって夜店を出し、その後「スタンツ（寸劇）」をすることにしました。そのため、3日目の午後は、グループ全員でどんな料理をつくるのか、スタンツの演目をどうするのかなどを話しあう時間をとりました。

3日目の午前までは、グループ間に「競争」を持ち込んで、各グループの結束をはかりました。しかし、「まつり」では、夜店もスタンツも、自分たちが楽しむだけでなく、みんなを楽しませるためにもおこないます。グループ同士が「競う」のではなく「協力する」ことを通して、キャンプ全体を盛りあげたいと思いました。そして、最後のカウンスルファイアーでは、再びグループにもどり、メンバーで火を囲みながら3日間の振り返りをしました。

4日目のゲーム大会では、グループの縛りをなくして、キャンプ全体で遊び、やまびこキャンプを締めくくりました。

この年の「やまびこキャンプ」はおそらくは「成功」だったのだろうと思います。なにより、カウンセラーひとりひとりが手応えを感じてくれたようでした。キャンプ後の打ち上げは大盛り上がりでした。わたしも興奮していたのでしょ、何度も「カウンセラー！集合！」と言って、乾杯を繰り返した記憶があります。

しかし、総括のミーティングではマネージメントの側から「準備不足」という指摘が多数出されました。ただ、この頃に仕事が忙しくなり、しばらく「やまびこキャンプ」から離れることになり、その指摘に応え

ることはできなくなりました。

数年後、たまたま日程が空いたわたしは、久しぶりに「やまびこキャンプ」のリーダーをすることになりました。その時のわたしの役割はマネージメントリーダーでした。それまで基本的にはプログラム系を担当してきたわたしにとって、マネージメント系の世界は驚きでした。

プログラム系のリーダーは、基本的にはプログラムと一緒に動きます。しかし、マネージメント系のリーダーは、時としてプログラムとはまったく違う動きをします。マネージメント系のリーダーの役割にはキャンプ場の環境整備も含まれます。例えば、自炊のあとに排水の詰まりがあるとすると、次の自炊までにその詰まりをとっておかなければなりません。キャンプの過程で出たゴミを焼くのもマネージメント系のリーダーの役割です。一見、キャンプとはまったく無関係な動きをしていますが、それもまたキャンプが円滑に進行するためにとっても大切な役割となります。

さらに、マネージメント系のリーダーのもっとも大切な役割は、プログラムの準備と後片付けです。そのために、常にプログラムの「先」を読みながら行動する必要があります。マネージメント系のリーダーからプログラム系のリーダーを見た時、マネージメントに優しいプログラム運営と、そうではないプログラム運営の差は歴然としています。おそらく、2度目の「やまびこキャンプ」は後者だったのだらうと思います。では、マネージメント系のリーダーにプログラム系のリーダーの要素は不要なのかというと、そうではありません。プログラム系を経験したからこそ、プログラムの「先」を読むことが可能となります。この時の「やまびこキャンプ」では、マネージメントディレクターをしていた友人から「土肥のようなマネージメントリーダーがいたら安心だ」と言われました。

キャンプの経験は、グループとの距離感やプログラムの意味、そしてマネージメントを意識し続けることの大切さを、わたしに教えてくれました。